

絵詞

紫雲英見

水々しくつけた どちらが美—いかと言え、はかなさ、うらおもてに
 バウの世帯(ぼみだ) ある花。—たにげな花の方が—ぬない。
 たのが三目に—く すぐにおいて行く事など、たとえ知っていたと—くも
 是あはなやが花びら 口びるがみ—ぬ、そんながけらなど見せず、はつ
 も人生の思案にあけらつと元氣い。げに、さるほいてる花は
 入つて—つた。美—い。ほんとうに美—いものだ。
 あまにも短かい花の 少—づ、水をすい上げられなくて、水々—
 命に虚実のうらおもて、さる少—かに、来て、も、それと口にするのが、
 まかい、見た気が—に、こめて振えて、る様に、こえ、思えて来る。
 うなだれた花びらは見るに おいて行く時には、—と、ぬ、事を、お願い
 —ぬ、びない。 —ます、い、言、いたげに、花びらは、うな
 あまにも あぬれだ。 だれて、重々—く、首を下げる。
 あぬれほど、ほこら—く、さう、う、水でも短かい、生を、せい、ばい、生を
 ほいて、いたのは、いつ時のまぼ 子—た、もう、く、いは、あ、り、ま、せ、ん
 くら—だ、たの、だらう、か。 と、僕に、語り、かけて、くる、様、だ。
 こ、水から、さる、ほこる、だらう、花 うなだれた花びらから、気のせ、いか、夜
 を、いけるのは、楽—み、が、よい。 つ、中、が、光、り、な、が、ら、落、ち、て、行、た、よ
 でも、水々—さを、失、つ、て、—つ、た、う、は、氣、が、する。それ、は、ひと、す、ど、の
 花は、どう—て、よい、の、や、ら、ま、を、さ— 涙、が、ほ、水、落、ち、た、の、か、も—ぬ、な
 の、べる、の、ま、え、い、た、に、げ、で、ある。 い。いつ、も、花、を、い、け、て、い、る、人、は、
 花瓶に、いける花は、二度と花びらと そんな花のは、かな、さ、に、氣、付、く
 つけない、一度、だけ、の、美—さ、で、ある。 時、を、失、つ、て、い、る、の、か、も—ぬ、ない。
 だから、よけ、い、その、花、が、い、と、お—く —ば、ら、く、の、同、花、を、い、ける、を
 美—い、の、か、も—ぬ、ない。 を、休、め、静、か、に、花、に、付、い、て
 土に、ま、く、花は、光、の、流、れ、に、よ、つ、て、再、び 考、え、て、み、る、時、を、持、つ、て、も
 さ、く、だ、ら、う、花、で、ある。 よ、い、の、で、は、な、い、で、は、う、か。
 そ、こ、に、は、美—さに、加、え、て、新—い、生、命、の 美—さに、あ、ら、ぬ、が、ひ
 予、感、を、秘、め、て、い、る、た、く、ま—さ、さ、え、ある。 そ、む、あ、る、夜、の、話—